

4～5月の支出(図書、備品、慶弔、飲食除く)

161,733円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

印刷代(月刊武松印刷代)	102,480円
交通費(駐車場、燃料代、高速代)	18,421円
通信費(携帯電話代、折込代)	40,832円
支出計 11/4/11～11/5/31	161,733円
寄付	
Yさん、Kさん	60,000円

市政を考える 月刊武松

発行日
11/6/1

第119号

16000部発行

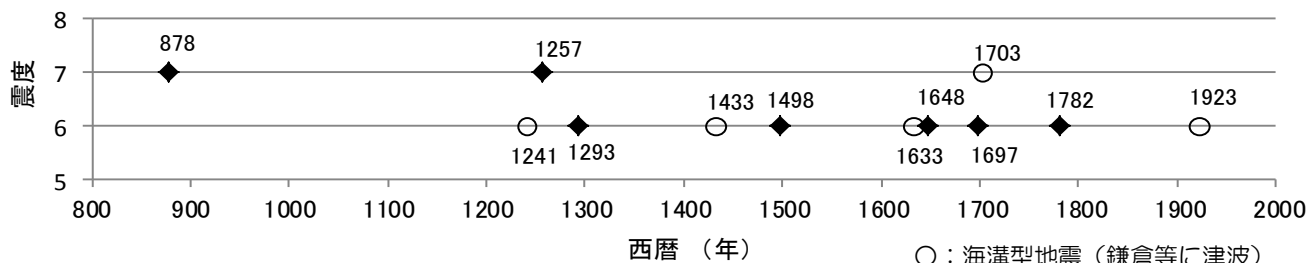
たけまつ ただし

頒布責任者：武松 忠(市議会議員)
武松政策研究会

小田原の地震被害の歴史！

建物の耐震化・家具の転倒防止！ 津波よりも、高潮に注意！

図1 県内で観測された震度6以上の地震



東日本大震災の津波の映像が頭から離れませんが少し冷静になって小田原の震災を振り返ります。

■関東・相模・小田原の記載がある震度6以上の地震

878年 相模・武蔵地震

M7.4、死者多数。京都でも揺れが感じられる。

1241年 鎌倉大地震

M7.0、津波を伴い。由比ヶ浜大鳥居内拝殿流失。岸にあった船10艘が破損。

1257年 正嘉(鎌倉)大地震

M7.0～7.5、神社仏閣等被害甚大。所々に地割れ。

1293年 鎌倉大地震(永仁の大地震)

M7.1、建長寺などで火災発生、死者2万3000人余余震多発。

1433年 関東大地震

M6.7、死者多数。鎌倉極楽寺の九輪が落下。大山の仁王の頸も落ちる。津波により当時東京湾に河口があった利根川が逆流。

1498年 明応地震(東南海・東海地震)

M8.2～8.4、死者3万～4万人以上と推定。伊勢・駿河などで津波により大きな被害、浜名湖が海と繋がる、鎌倉高德院の大仏殿が押し流されるなど地質調査によればほぼ同時期に南海地震も発生。

1633年 小田原大地震(相模・駿河・伊豆地震)

M7.1、死者110～150人。小田原城・城下町の被害甚大。箱根山中の山崩れにより東海道寸断。駿河・熱海に津波。

1703年 元禄の小田原大地震(元禄関東地震)

M8.1、本丸御殿、天守閣をはじめ小田原城全壊。火災で城下全焼 領内死者2261人。三浦・房総に津波

1707年 宝永地震(東海・南海・東南海連動型地震)

M8.4～8.7、死者2800～2万人以上、倒潰・流出家屋6万～8万軒。関東から九州までの太平洋岸に津波、伊豆・伊勢・紀伊・阿波・土佐などで大きな被害。地震から49日後に富士山の宝永大噴火道後温泉の湧出が数ヶ月間止まる。

1782年 天明小田原地震

M7.0、住宅約800破損、小田原城天守閣傾く。

1853年 小田原地震 M6.7、死者約20～100人。

1902年 明治大海嘯(高潮)

高潮で死者不明者60人。森戸川周辺は河口から約800m、酒匂川周辺は約1.2km(小田原大橋付近)、早川周辺も約1kmまで浸水。

1923年 大正関東地震(関東大震災)

M7.9、足下郡死者1772人。御殿場線沿線と海岸沿いの建物全倒壊7～8割。小田原町内建物のほとんどが全壊し、火災により半数が焼失。片浦村は山津波で83戸埋没。津波は、鎌倉方面(約6m)と、真鶴・熱海方面に押し寄せた。小田原は引き潮と1m程度の津波であり、事実8千名が数日間海岸に避難していた。

参考文献：理科年表、小田原市史、西さがみ地震(播磨晃一編)他

様々な文献を調べても、小田原における大津波の記述は見つかりませんでした。私は、津波よりもむしろ直下型地震に対応し、建物の耐震性を上げ、家具類などの確実な転倒防止をすることが、必要だと思います。

高潮対策は、1902年の浸水域に、堤防や護岸の高上げや排水処理の見直しを行い、高潮時の避難場所の海拔は10m以上にするのが現実的です。

The Voice これまでに頂いたご意見から

学校や保育園の放射線測定を 30代男性

はじめまして。私は国府津に住んでいます。原発事故以来、放射性物質の飛来を心配していました。子供たちが安心して遊べるように小学校の校庭や保育園の園庭などの放射線量の検査、もしくはガイガーカウンターの購入を市へ依頼出来ませんか？ ゴールデンウィーク前に小田原市に確認しても、「県へ調査を依頼している」と言いますし、県の安全防災局危機管理部へ連絡をすると「こちらではそのような依頼は受けていない。他部署で依頼を受けているかも？」との回答でした。

小田原市は本当に検査するつもりはあるのでしょうか？ 南足柄市や小田原市の茶葉から基準値以上の放射性セシウムが検出されたと報道もありました。西には箱根山があり、北東の風が吹けば放射性物質が箱根山を超えずに降下しているのではないのでしょうか？もしも、小田原市が汚染されていたとしても今から郡山市のように除線処理をすればまだ間に合うと思います。心配性なのかもしれませんが、今後を担う子供たちに何かあってからでは遅いと思います。（何もなければあの時のお父さんは・・・と笑い話で済むだけです）
よろしくお願いいたします。

茶葉の出荷停止の件などから、小田原でも農産物だけでなく学校環境や土壌に対する関心が高まっています。そのそも放射線は、無味無臭無痛・不可視ですので、わからない怖さがあります。それに加え、「基準値や単位（ベクレル？、マイクロシーベルト？）で頭が混乱します。」「基準値の根拠や数値を気にすると夜も寝られない。」……etc. もっともだと思います。そこで、まず、文部科学省から保護者向けのパンフレットが発行されていますのでその内容を抜粋します。

Q. 私たちの学校、私たちの住んでいる地域は大丈夫？

放射線によって健康への影響が出るおそれのある区域には、すでに避難指示が出ていますので、逆に指示が出ていない地域は過度に心配しないで下さい。

○比較的高い放射線量が測定された学校には、線量計を配布して、学校での線量を把握できるようにします。

Q. 何に気を付ければいいのか？

- ・土や砂を口に入れない。 ・飲料水以外の川や、水たまりの水を口にしない。
 - ・外で遊んだら手や顔についた土や砂をよく洗い落とす。
 - ・服についたほこりを払い落としてから教室や家に入る。 ・洗髪は通常通り行っていれば安心。
 - ・雨が降ったらカサをさした方が安心。
- 以上（文部科学省 5/11 保護者の皆様へ）

なお根菜類は、よく土を落とし皮をむく。葉物野菜もよく洗う。など普段通りの生活で少しでも体内の吸収量を減らせると思います。また学校清掃等で側溝の掃除は児童生徒に行わせないことなど少し配慮すればいいでしょう。科学的に調べてない中で大丈夫と断言することも出来ませんが、そもそも日本人の体重60kgの方で自然放射性物質のカリウム40（4000ベクレル）、炭素14（2500ベクレル）等を持っています。現状ではタバコの方が発がんリスクが高いそうなので、過度に心配しない方が無難だと思います。

■6月補正予算に放射線量率測定費購入費計上

6月補正予算に、放射線量率測定費購入費として154.7万円が計上されました。6/16の本会議後に正式発注となりますが、納入時期は生産が追い付かず、9月以降とのことです。行政の対応は遅いと思われるかもしれませんが、現在でも測定方法の基準が確定していないことや数字が先走って混乱した経験から冷静な対応も大切だと思います。

月例勉強会のお知らせ

勉強会はどなたでも参加できます。自己紹介はしていただきますが、勧誘等は一切行いません。

6月の勉強会は

日時：6/25(土) 18時～20時

場所：市民会館6階 第一多目的室

テーマ：「市民ホールについて」

参加費：100円 終了後、実費で懇親会を行います。

i - mode HP →



HPは、**YAHOO!**で「たけまつただし」 月刊武松バックナンバー全て掲載しています。

寄付は、ジャパンネットバンク 本店 普通口座 7941377 タケマツタダシ
さがみ信用金庫 大井町支店出張所 普通口座 0051228 武松政策研究会 武松忠 まで
月刊武松は**本人が配布**しているため、行き届かないところがありますが、読み終わりましたら知合いの方にお渡しいただくと幸いです。また、**eメールでも送付していますので連絡下さい。**